
第5章

六人制メカニクス

六人制審判の取り決め事項

1. ポジショニング

- ①右翼（または左翼）外審は、右翼ポールと一塁塁審の中間点（または左翼ポールと三塁塁審の中間点）で、各ファウルラインの内側1メートルくらいに位置する。

2. 外野への打球の責任範囲

A. 二塁塁審が外に位置した場合

右翼外審は、右翼手から右翼線寄りの打球、二塁塁審は右翼手と左翼手の定位置間（正面および背後の打球を含む）の打球、左翼外審は左翼手から左翼線寄りの打球に責任を持つ。二塁塁審が打球を追ったときも、右翼外審または左翼外審も打球の方向に動く。

B. 二塁塁審が中に位置した場合

二塁塁審はいっさい外野への打球は追わない。右翼外審は、中堅手から右翼線寄りの打球、左翼外審は、中堅手から左翼線寄りの打球に責任を持つ。中堅手正面の打球に対しては、両方の外審が追って、捕球された側の外審が判定する。どちらが判定を下すか、お互いのアイコンタクトが求められる。

- C. 一塁塁審または三塁塁審の頭上を越えた打球で、右翼外審または左翼外審の前方の打球については、右翼外審または左翼外審がフェア／ファウルの判定の責任を持つ。

- D. 右翼外審または左翼外審の後方の打球については、

右翼外審または左翼外審がフェア／ファウルの判定の責任を持つ。

3. メカニクス

- ① 走者なしで内野ゴロが打たれた場合、右翼外審はファウルテリトリーに移動し、悪送球または観衆の妨害に備える。
- ② 4人の審判員はマニュアルどおりにローテーションをする。球審が三塁にローテーションするのは、走者なしでかつ二塁塁審が打球を追ったときだけである。それ以外はすべて球審は本塁に留まる。外審がベースのカバーに入ることはいない。

